

福井県衛生環境研究センター活動報告 概要

発表演題名	福井県におけるエンテロウイルス系疾患の発生動向調査
発表学会名	令和5年度地方衛生研究所全国協議会 東海・北陸支部保健情報疫学会
発表者名	小和田和誠（保健衛生部）
開催場所	福井市地域交流プラザ AOSSA
発表日時	令和5年10月12日 14:30～16:50
発表内容	今年の夏にヘルパンギーナが全国的に流行し、本県でも患者の増加が見られた。そこで、近年のヘルパンギーナ等のエンテロウイルス系疾患の流行状況について把握するために、本県における患者発生状況および当センターにおける病原体検出状況についてとりまとめた。2013年から2023年7月末までを調査対象期間とした。 福井県において、手足口病は、2013年、2015年、2017年、2019年に、警報開始基準値を超過した。ヘルパンギーナは、警報開始基準値を超えることはなかったが、例年夏に患者数が増加していた。無菌性髄膜炎は、流行を確認できなかった。 保健所管轄地域別にみると、手足口病においては、コロナ禍以降の流行時期に地域差が見られた。ヘルパンギーナにおいては、二州地区が各地区に先行して基準値超過となる傾向がみられたため、当地区は本県の流行開始の目安として重要と考えられた。 年齢別にみると、コロナ禍前後で手足口病やヘルパンギーナの患者年齢分布がやや異なっていた。 病原体検査の結果、手足口病では、A群コクサッキーウイルス6型や16型が多く検出された。ヘルパンギーナでは、A群コクサッキーウイルス4型、6型、10型が多く検出された。無菌性髄膜炎では、B群コクサッキーウイルスやエコーウイルスが多く検出された。